

TATAMEL BIKE

タタメルバイク

ユーザーマニュアル

24_12_10

ICOMA

ICOMA

目次

1. 説明書を読む前に	...P. 4~	11. バッテリーモニター	...P. 48~
2. 内容物一覧	...P. 9~	操作説明	
3. 各所説明	...P. 13~	12. 点検項目	...P. 50~
4. 変形の注意	...P. 18~	13. メンテナンス項目	...P. 53~
5. バイク状態への変形	...P. 20~	14. モニター操作説明	...P. 59~
6. 折り畳み状態への変形	...P. 28~	15. 起動手順	...P. 64~
7. サイドパネルの外し方	...P. 36~	16. トラブルシューティ	...P. 67~
8. サイドパネルの付け方	...P. 38~	ング	
9. 充電手順	...P. 40~	17. 製品仕様	...P. 71~
10. バッテリー交換	...P. 43~	18. お問い合わせ	...P. 74~

1

説明書を読む前に

ICOMA

説明書を読む前に

安全上のご注意（必ずお守りください）

この TATAMEL BIKE ユーザーマニュアルをよくお読みの上、正しくお使いください。

本誌に記載されている注意事項は、守らないと人身事故や家財の損害に結びつくものです。安全に関する重要な内容なので必ず守ってください。

このページに記載されているマークは、誤った使い方をした場合に生じる危害や損害の程度を区分し、説明しています。よく確認の上、本誌をお読みください。



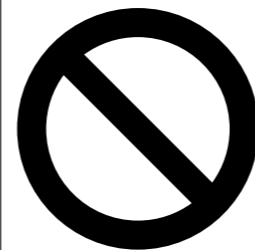
警告

この表示がある欄は「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示がある欄は「傷害を負う、物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。



この表示がある欄はおこなってはいけない「禁止」の内容です。



この表示がある欄は必ず実行していただく「強制」の内容です。

説明書を読む前に



警告

- ⓘ TATAMEL BIKE は一般的なスクーターなどの軽快車に位置付けられる車両です。基本的に乗車の際は舗装された公道、および私道で乗車してください。
- ⓘ 二段階右折など原付1種区分の交通法規に従ってください。
- ⓘ 乗車の際は必ずバイク用ヘルメットの着用をしてください。
- ⊘ 二人乗りなどの危険な乗り方をしないでください。
- ⊘ 法定速度は30km/hです。速度超過しないよう安全に運転してください。
- ⊘ ハンドルに座ったり、ハンドルにタイダウンをかけて引っ張る行為は避けてください。ハンドルの故障もしくは乗車時に破損する可能性があります。
- ⓘ バイク本体の印字または貼られている注意書きは必ず守り、点検や運転を行なってください。
- ⊘ 安全のため、不正改造は行わないでください。
- ⊘ バッテリーの取扱には十分注意してください。(高温にさらさない。水にさらさない)
- ⓘ いつもと違う音、匂いがした場合は運転せず、点検を行い、原因がわからない場合はICOMAにお問い合わせください。

説明書を読む前に



注意

- ① サイドパネル、トップカバーを外すと防塵防水性能が低下します。雨天時にはサイドパネル、トップカバーとともに装着した上で使用してください。
- ① モーターなど高温になる部品があります。駐車する際には人が触れないような場所に駐車してください。
- ⊘ メンテナンスカバーは点検、メンテナンス以外で開けないでください。
- ⊘ 事故の原因になるため、運転操作の邪魔になる服装は避けてください。
- ① 本誌に記載されている点検、メンテナンスを定期的に行ってください。
- ① 本誌『TATAMEL BIKEユーザーマニュアル』をよく読み、それに従って安全に変形、運転使用してください。
- ① 悪路での継続的な使用、急激な段差の断続的な乗り上げなどは避けてください。
- ① 航続距離は、運転方法や路面環境により大幅に変化します。走行ルートには計画性を持ち、後続距離や路面環境を意識して走行してください。
- ① 登坂路によっては、モーターの故障対策として電流リミットがかかり、車両のスピードが大幅に減少する場合があります。過度な坂道などは周りの車両に注意しながら走行してください。

説明書を読む前に



雨天時の走行について

TATAMEL BIKE は大雨など大量の水がかかる条件での使用は推奨致しません。このような条件で継続的に使用した場合、感電などの事故や電気系統の故障につながる場合があります。大雨などに遭遇した際は速やかに電源を落とし、車体を乾いた布で拭き取って屋根などのある場所で待機してから再走行を行なってください。

- ⓘ 雨天時は充電口や USB ポートでの充電を速やかに中止して防水キャップを閉じてください。
- ⓘ 雨天時帰宅後は外装パネルの水滴を軽く拭き取ってください。
- ⊘ 部品を外したり、基板部分を触ることは乾燥するまで避けてください。

USB ポート
開放時



USB ポート
閉鎖時



充電ポート
開放時



充電ポート
閉鎖時



2

内容物一覽

ICOMA

内容物一覧

内容物のご確認

タタメルバイクが届きましたらはじめに以下の内容物が揃っていることを確認して下さい。

タタメルバイク本体	1台
サイドパネル	左右各1枚
充電器	1個
NFC カードキー	1枚
NFC キー予備	2個
バッテリーカバーキー	2個
販売証明書	1枚
説明書・保証書のご案内	1枚

内容物一覧

TATAMEL BIKE
タタメルバイク

本体説明書・保証書のご案内

この度は ICOMA TATAMEL BIKE をご購入いただきありがとうございます。

本体説明書、及び保証書につきましては下記の URL、または QR コードからご覧いただけます。

必ず説明書、保証書をよく読んでから本製品をご使用ください。

内容物

本体には、サイズが異なる部品（両側用）が、MFC カラーシート紙、及び付属ケーブル、ケーブルカバー（ケーブル用）、保証書が同梱されています。

ICOMA TATAMEL BIKE の保証書ダウンロード

ICOMA TATAMEL BIKE の保証書ダウンロードは、ICOMA TATAMEL BIKE の公式サイトからダウンロードいただけます。ICOMA TATAMEL BIKE の保証書ダウンロードは、ICOMA TATAMEL BIKE の公式サイトからダウンロードいただけます。

こちらがカードキーになります。紛失しないように注意して下さい。

本体説明書、保証書はこちら

<https://drive.google.com/uc?export=pdf&id=18x10z2000071LCfuln3e4bl-d2>



ICOMA

販売（譲渡）証明書

車両番号 (ナンバー)	
車名 (メーカー名)	ICOMA (ICOMA)
車台番号	0000
制御装置又は 定額出力	L 0.6kW

登録が完了した車両などの場合には、車両番号（ナンバー）欄の記入は不要です。

上記の電動アシスト自転車に販売又は譲渡したことを証明します。

令和 8年 01月 01日

譲渡人又は販売者
(田舎新車)

住所又は所在地
大田区大森南6丁目17番17号
KOCALAB 田舎新車

株式会社 ICOMA
電話番号 050-1729-3280



譲受人
(所有者)

住所又は所在地
株式会社 ICOMA
電話番号

バッテリーカバーキー



予備NFCキー

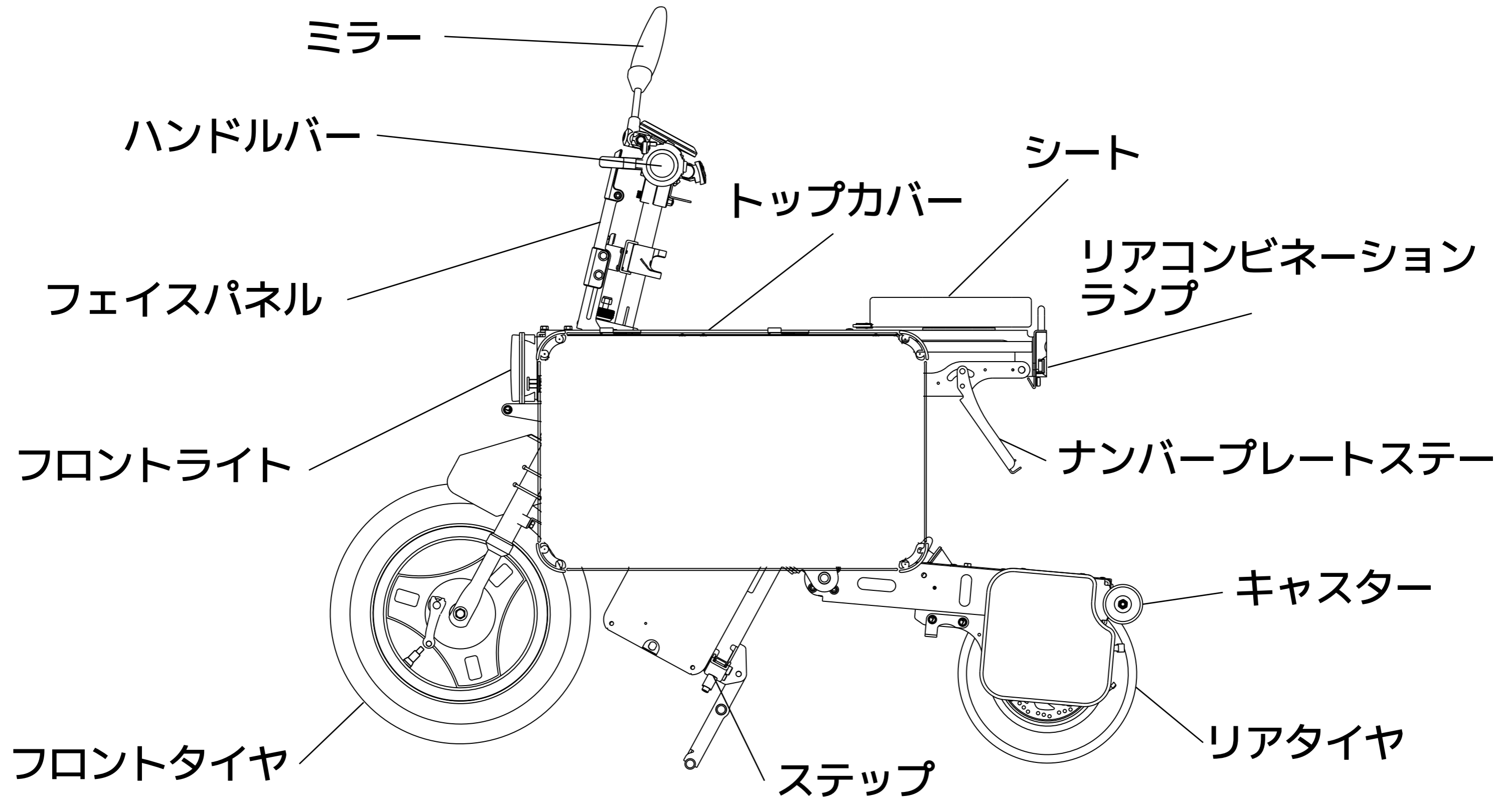


3

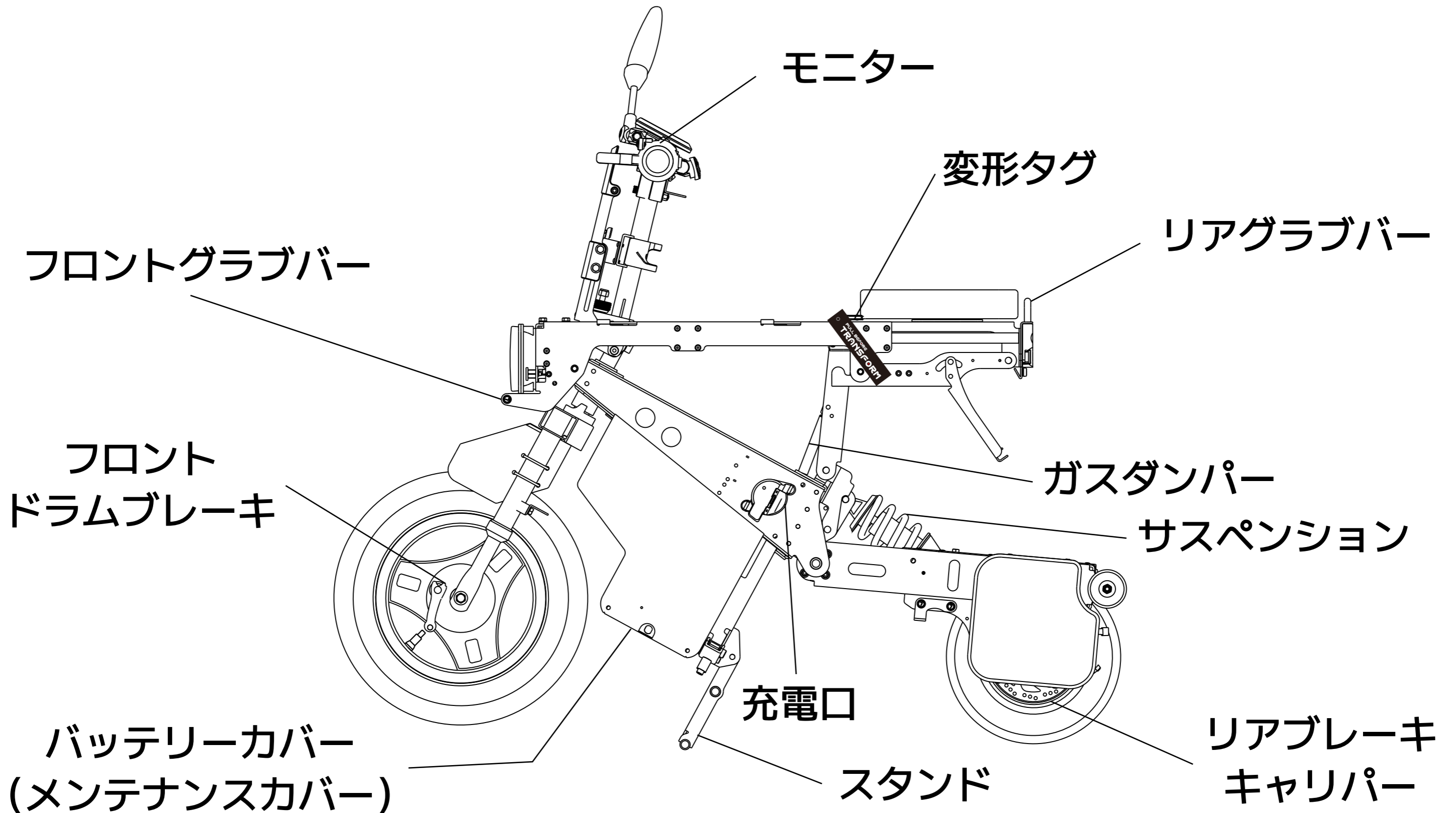
各所説明

ICOMA

各所説明 本体



各所説明 フレーム



各所説明 メンテナンスカバー内

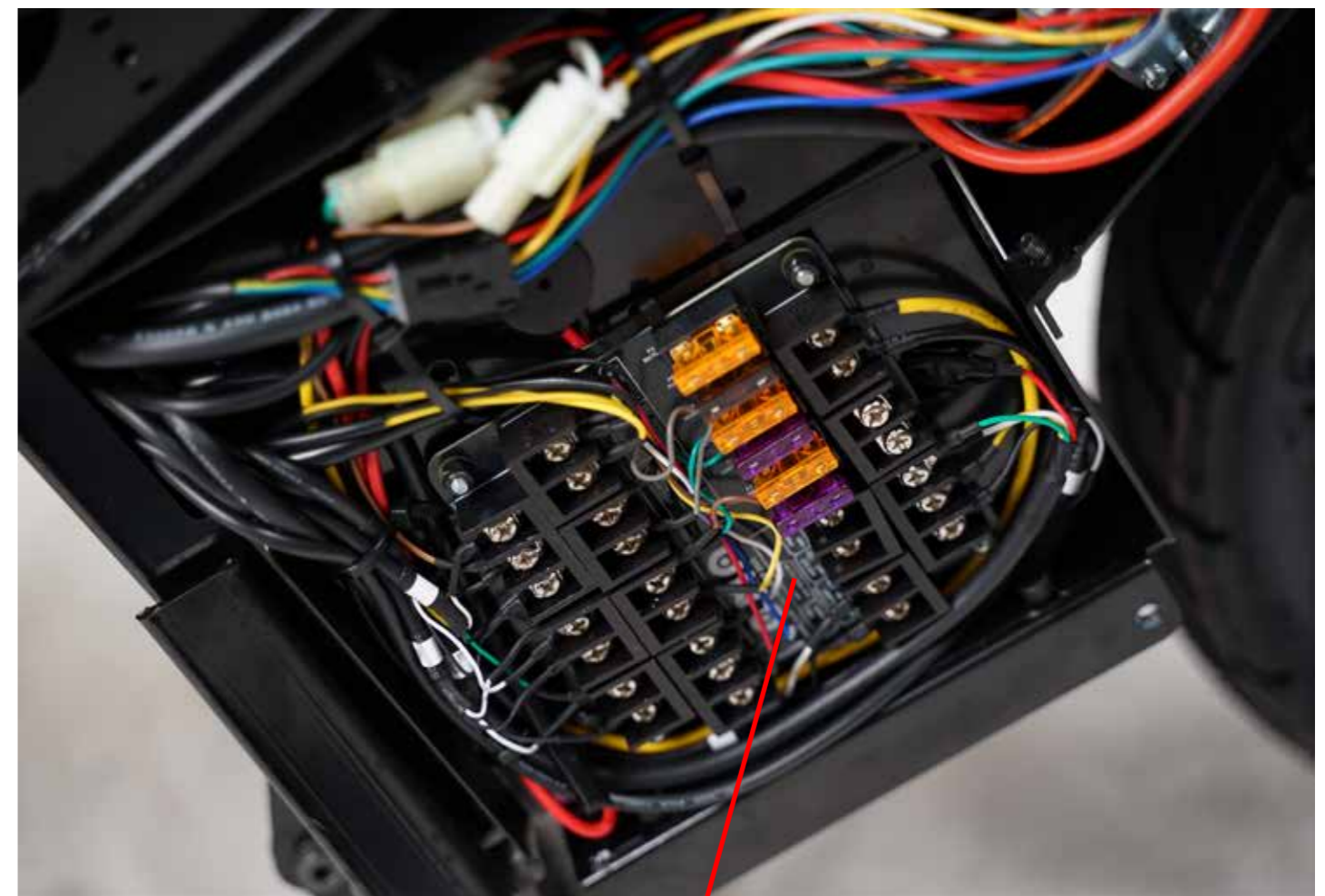
左側面メンテナンスカバー開放時

右側面メンテナンスカバー開放時



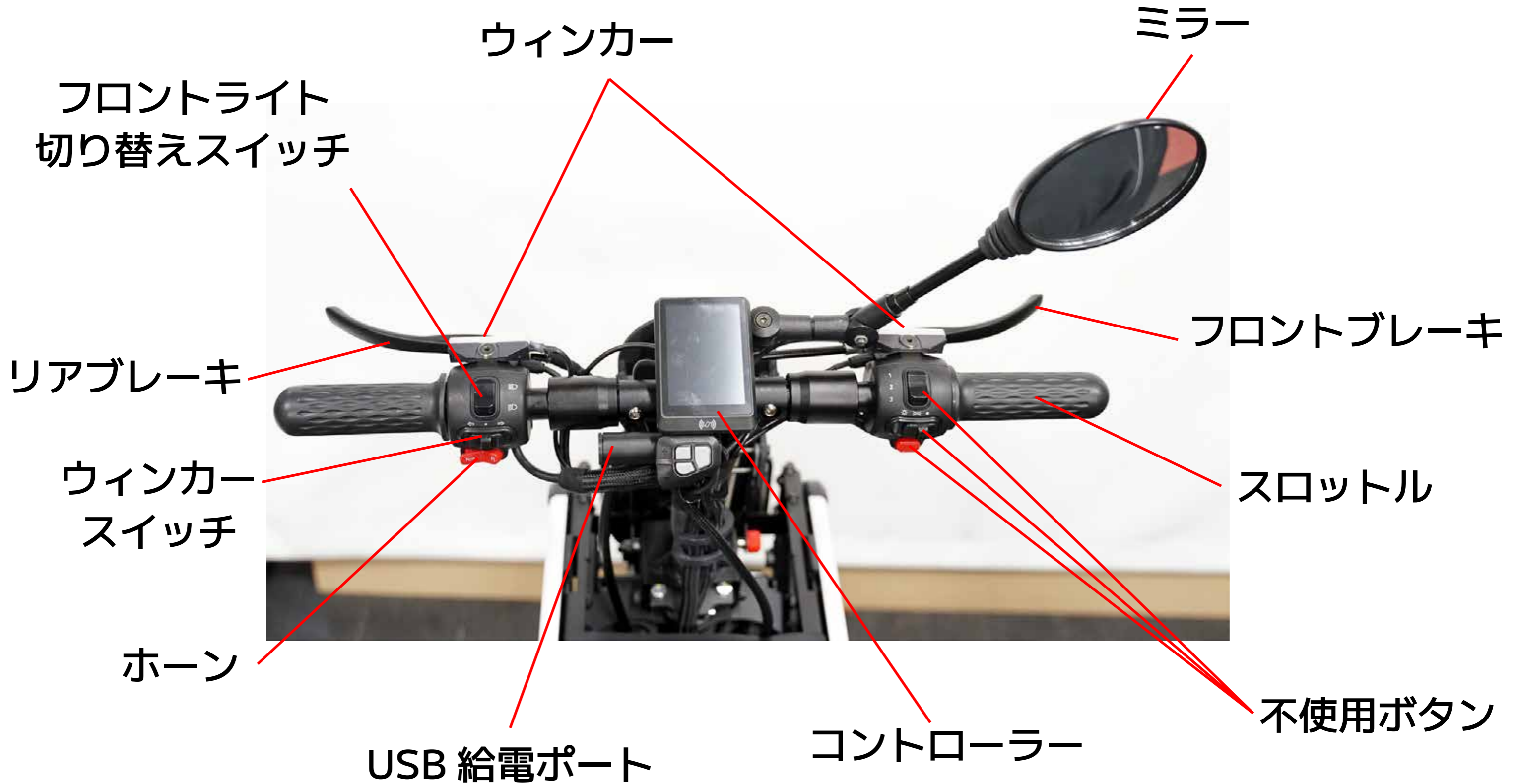
メインヒューズ

バッテリー



ヒューズボックス

各所説明 ハンドル



各所説明 バッテリー

バッテリーモニター

充電口

持ち手



4

変形の注意

ICOMA

変形の注意

以下のマークに注意して変形を行なってください。



通電している箇所があります。注意してください



指や服が巻き込まれないよう注意してください



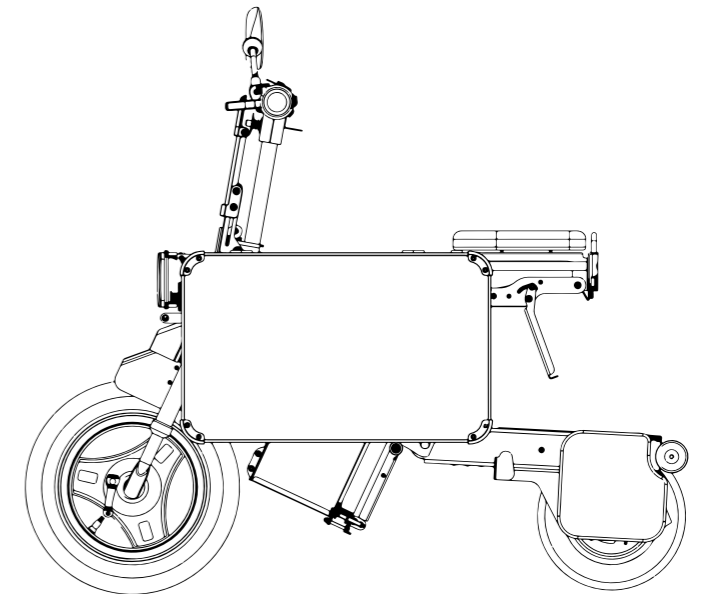
破損する可能性があります。注意してください



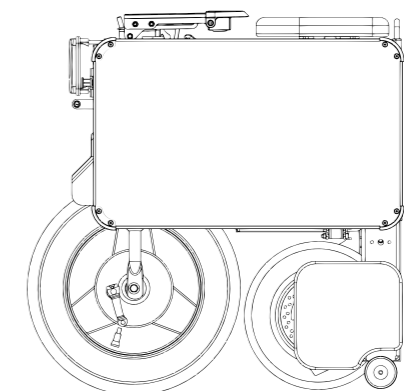
指示を読み、慎重に動作を行ってください

状態の呼び方

バイク状態



折り畳み状態



5

バイク状態への変形

ICOMA

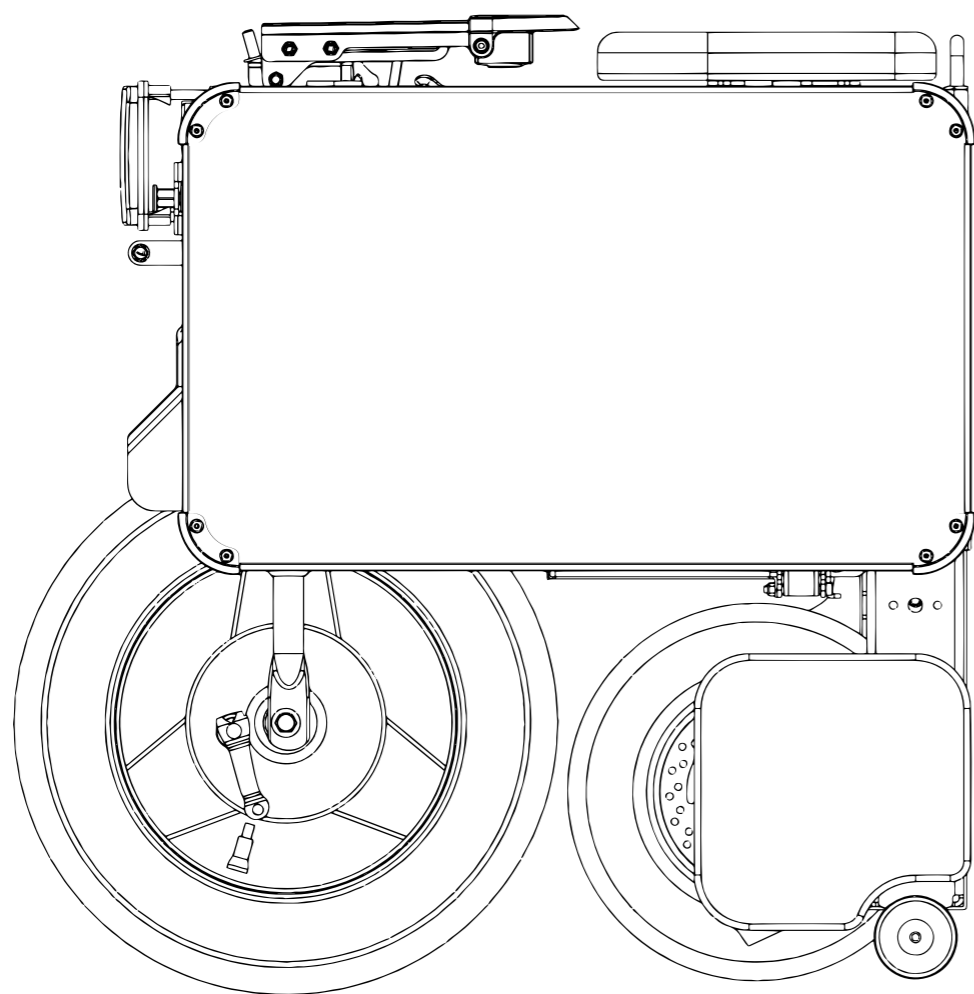
バイク状態への変形

TATAMEL BIKE

タタメルバイク

折り畳み状態

必ず広く平らな場所を確保し、周りをよく確認して変形を行なってください。



バイク状態への変形

1



シートスライドを引き伸ばします。

シート後方の取手を持ち、斜め上方向に止まるまで引き上げます。

この時、シートスライドはロックされていません。必ずロックするまで離さずに取手を保持してください。



2

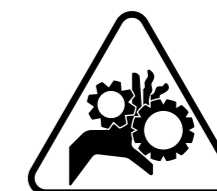
ナンバープレートステーを展開します。

シートスライドを完全に引き伸ばしたままナンバープレートステーをリアコンビネーションランプから外し、矢印のように動かします。

シートスライドはまだロックされていません。取手を離さない様に注意してください。



3



ナンバープレートステーとシートスライドをロックします。

ナンバープレートステー下部を持ち、片手で取手を保持したまま勢いをつけてナンバープレートステーを本体に押し付けてロックします。



バイク状態への変形

4



ナンバープレートステーを確認します。

ロックがかかっていない場合誤変形の可能性があります
あり危険なため、ロックがかかっているかどうか、ナンバープレートステーを引いて確認します。

ロックがかかっていない場合は3と4の動作を繰り返してください。



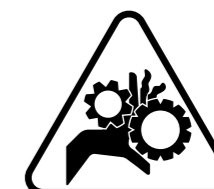
5

フェイスパネルを前方に倒します。

フェイスパネルに傷がつく可能性があるので丁寧に行ってください。



6



ハンドルを引き出します。

左右のブレーキ部分を持ち、ハンドル根元の赤いノブを押しながらハンドルを引き出します。

この時、指挟みや、パーツ同士の干渉に十分注意して下さい。



バイク状態への変形

7



ハンドルバーを展開します。

ハンドルバー内側を持つと指を挟む可能性がある
るので危険です。必ずハンドルバーの先端を
持って、ハンドルが水平になるまで上部に動か
します。

自動でロックがかかるので、下に力を掛けても
元に戻らないことを確認してください。



8

フェイスパネルをロックします。

フェイスパネルを起こし、伸び切るまで引っ
張ったままハンドルにカチッと音がするまで押
し込みます。引いても外れないことを確認して
ください。



9



ハンドル付け根のノブを締めます。

ハンドル付け根にあるノブを起こし、板の凹部
分に差し込んで締めます。

しっかりとノブを締めることでハンドルのが抑
えられます。運転前に必ずのぶが締まっている
ことを確認してください。



バイク状態への変形

10

ミラーを起こします。

ハンドルの根元に折りたたまれているミラーを持ち、水平を超える位置まで上に起こします。



11

ミラーを前に出します。

ミラーの付け根を持ち、ハンドルバーよりも前に移動させ、見やすい角度に調整します。



12

左右のステップを展開します。

下の写真のようにシルバーのパーツを足で下に押し、ステップが展開されます。再度足でステップを踏み、最後まで展開してください。



バイク状態への変形

13

スイングアームを展開します。

右手でシート後方の取手を、左手でリアブレーキをしっかりと握りながら前に押し出すと、スイングアームが展開されます。展開時に勢いについて転倒する可能性があるため各部をしっかりと持ち、慎重に展開してください。



14

スタンドを展開します。

スイングアームとバッテリーカバーの間にあるパーツを下に降ろすとスタンドが出てきます。スタンドが地面についている状態でシートの取手を掴んで本体を少し持ち上げるとスタンドが展開されます。



乗車する際の注意

バイク状態に変形後、以下の内容を確認してください。

- ・各部変形が完了しているか
- ・前後のブレーキが効いているか
- ・後方が見える位置にミラーが調整されているか
- ・ハンドルに大きなガタがないか

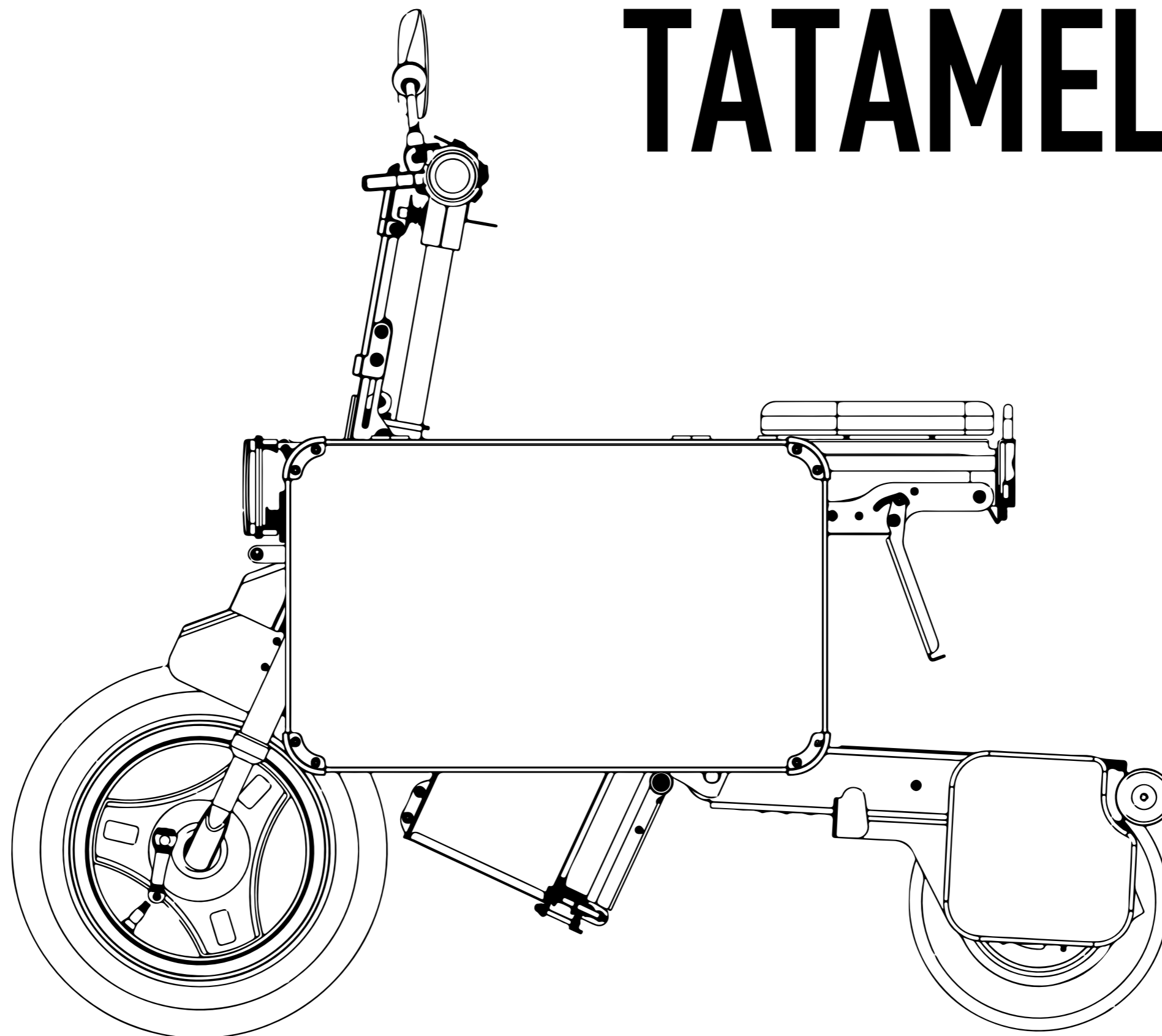
確認ができれば P64 の起動手順を参考に電源を入れて、乗車してください。

バイク状態への変形

TATAMEL BIKE

タタメルバイク

バイク状態
変形完了！



6

折り畳み状態への変形

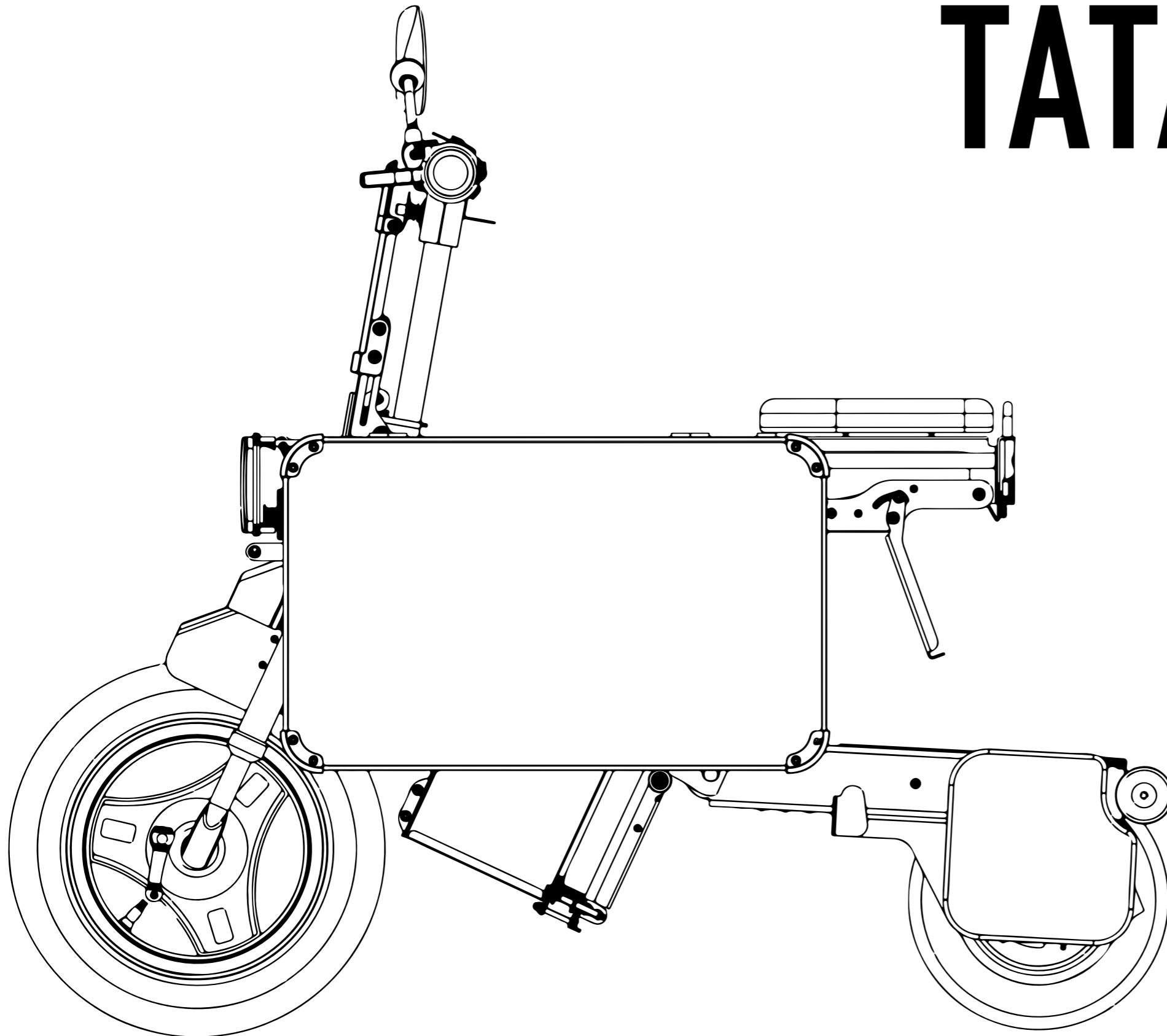
ICOMA

折り畳み状態への変形

TATAMEL BIKE

タタメルバイク

バイク状態



運転後は各所点検を行い、電源が入っていないことを確認してください。
変形は広く平らな場所を確保してから行ってください。

折り畳み状態への変形

1

スタンドを外します。

スタンドを足で踏んだ状態でバイク本体を少し持ち上げながら前進させることでスタンドが外れます。外れたスタンドを足で本体側へ蹴り上げることでスタンドが格納されます。



2

スイングアームを立ち上げます。

シート前部付近の変形タグを引っ張るとロックが解除されます。タグを引っ張ったままシート後方の取手を持ち上げることでスイングアームが立ち上がります。

バランスを崩して転倒しないよう取手をしっかりと持ってください。



3



ステップを折り畳みます。

スイングアームをしっかりと閉じたままステップを上を持ち上げて折り畳みます。この時、本体側の突起をステップでスイングアームがロックできていることを確認してください。

ロックされないままだと危険なため、この工程を忘れないように注意してください。



折り畳み状態への変形

4

トップカバーをめくります。

ハンドルを変形させる際に邪魔にならないようにシート側へトップカバーをめくります。



5



フェイスパネルを外します。

フェイスパネルの裏側に下の写真のような部品があります。片手でフェイスパネルを持ち、矢印の方向にレバーを倒すとフロントパネルが外れます。フェイスパネルが外れたら、傷がつかないように丁寧に下まで下ろします。



6

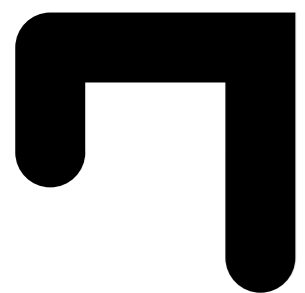
左右のハンドルバーを折り畳みます。

ハンドルバー内側の円柱状スリーブを最後まで引き切り、ハンドルを下方向に折り畳みます。

反対側も同様に折りたたんでください。スリーブを最後まで引き切らずに変形した場合、内部のリング状のパーツが外れることがあります。外れた場合はトラブルシューティングページを参考にご対応ください。



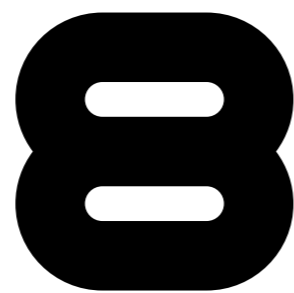
折り畳み状態への変形



ミラーを折り畳みます。

ミラーの根元を持って内側へ折り曲げます。その後ミラー部分がハンドル側に向くよう注意して回転し、ハンドルバーの間に収まるよう下へ倒します。

この時、ハンドルバーが左右ともピッタリとくっつくように最後まで畳まれていることを確認してください。

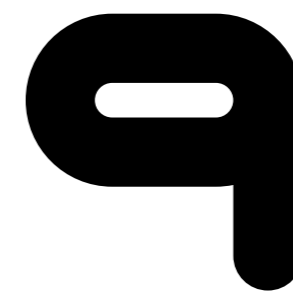
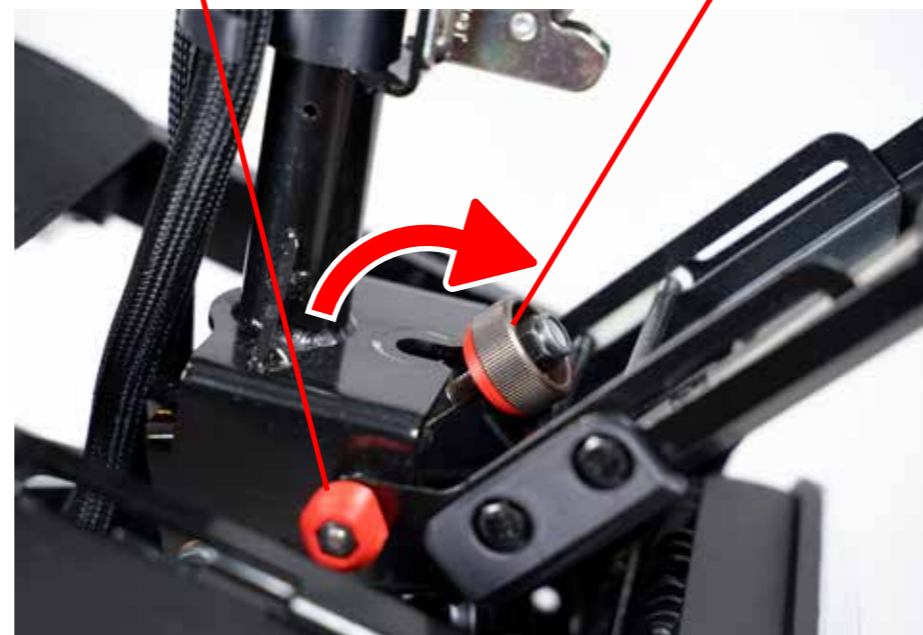


ハンドル付け根のノブを外します。

ハンドルの付け根にあるノブを回してロックを解除し、ノブを下に倒します。

赤いボタン

ノブ



ハンドルを格納します。

ハンドル付け根の赤いボタンを押し込むことでハンドルのロックが解除されます。赤いボタンを押したまま左右のブレーキを握り、ハンドル部全体を各部干渉や指挟みに注意しながら下方方向に折り畳みます。



折り畳み状態への変形

10



ハンドルの折り畳み位置を確認します。

白いウインカーパーツが写真の赤い印のように内部フレームの面と同じ高さになっていることを確認します。



11



ナンバープレートステーを外します。

ナンバープレートステーの下部を片手で持ち、反対の手でリアグラブバーを持ちながら図の矢印のように前方に押し込みながら下に引っ張ることでナンバープレートステーを外すことができます。



12

ナンバープレートステーを固定します。

ナンバープレートステーにあるベロをリアグラブバーの下に引っ掛けて固定します。このときシートとナンバープレートステーがシートスライドと垂直になっていることを確認します。



折り畳み状態への変形

13

シートスライドを格納します。

リアグラブバーを持ち、ゆっくりと本体側に押し込むと箱型にフレームが格納されます。
この時、ハンドル格納部や、スイングアーム付近に手を置くと巻き込まれて怪我をする可能性があるので注意してください。

14

フェイスプレートを倒します。

前方に出ているフェイスパネルを伸ばしながらノブを避けて本体側に倒します。この時トップカバーをフェイスプレートの上に乗せてください。

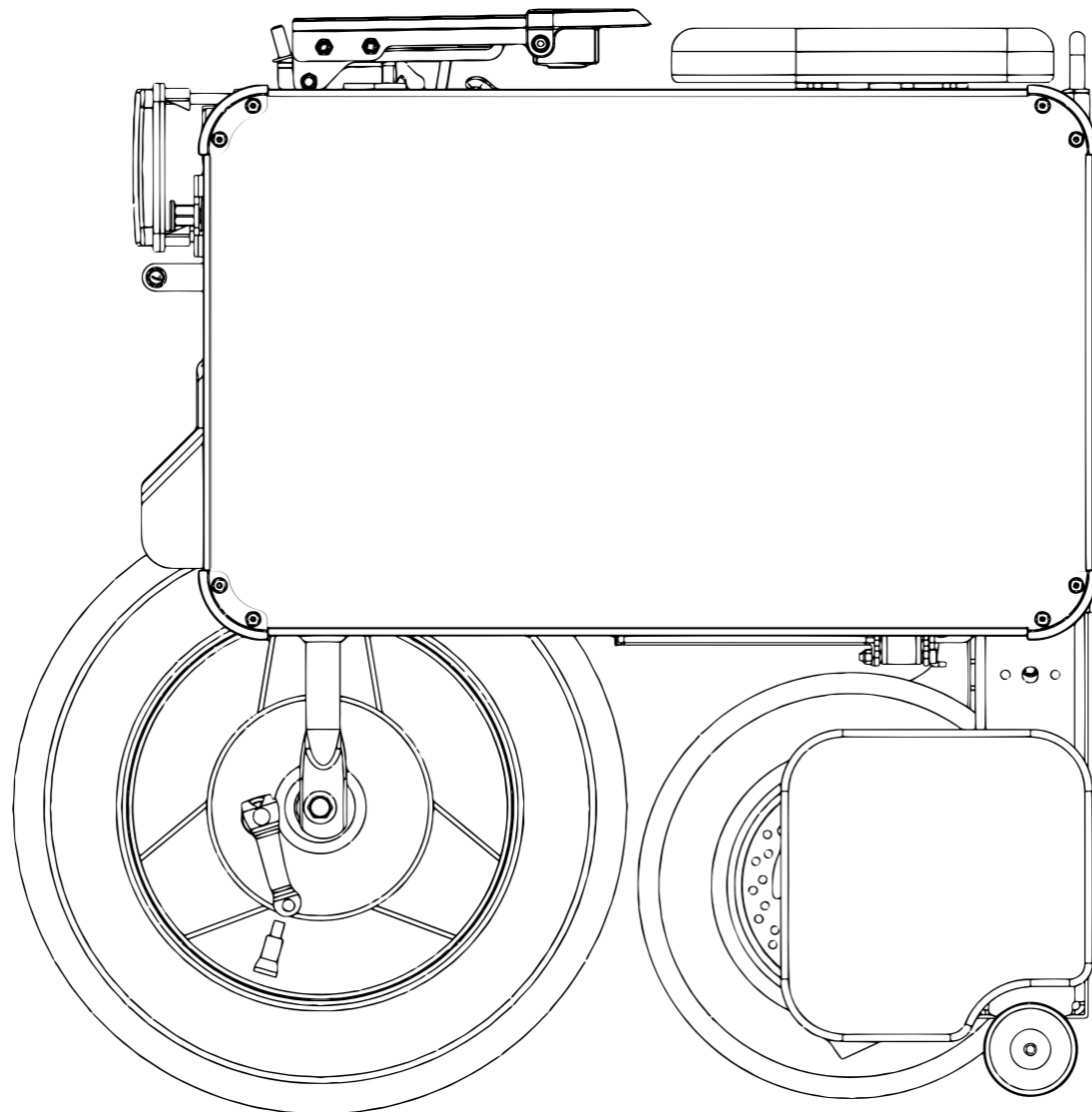


折り畳み状態への変形

TATAMEL BIKE

タタメルバイク

折り畳み状態
変形完了！





サイドパネルの外し方



サイドパネルの外し方

1

ロックピンを外します。

フロントライト横にあるシルバーのロックピンをバイク前方に引きます。



2

パネルを開きます。

ロックピンを外したままパネルを上にあげることによってパネルが開きます。

手を離すと自重で閉じてしまうので、しっかりと支えてください。



3

スライドして外します。

パネルを開いた状態でしっかりと持ち、バイク後方に向かってスライドさせるとヒンジから取り外すことができます。



8

サイドパネルの付け方

ICOMA

サイドパネルの付け方

1

ヒンジを入れます。

サイドパネルの前後にあるヒンジ部分を、写真の印の位置にある筒形の金具に通します。

必ずヒンジ部分は両方とも奥まで差し込んでください。



2

パネルを閉じます。

フロントライトの横にあるロックピンを引きながらパネルを閉じます。

このとき、パネル前方の金具の穴にロックピンが入ることを確認してください。入っていない場合は再度ロックピンを引きながらバイク本体方向にパネルを押ししてください。



3

パネルのロックを確認します。

パネルを少し引き、パネルがロックされていることを確認します。

しっかりとロックされていない場合は再度 1、2 の動作を繰り返し行って調整し、ロックピンを軽く押し込んでロックしてください。



9

充電手順

ICOMA

充電手順

1

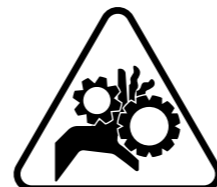


本体の電源を切ります。

本体の電源が入っている場合は、コントローラーの電源ボタンを長押しし、電源を切ってください。



2



左サイドパネルを外します。

サイドパネルの外し方の手順通りに左側のパネルを外し、フレームが見える状態にします。この説明ではサイドパネルを取り外して充電を行っていますが、上に展開するだけでも充電可能です。



3



コネクターの向きに注意して
差し込んでください



充電ケーブルを本体に差し込みます。

本体左側の写真の位置にある充電口のカバーを開き、向きに注意してコネクタを奥まで差し込みます。この時、音が鳴りますが不具合ではありません。



警告

充電口が水に濡れると感電の可能性あります。
触る際には手が濡れていないことを確認してから作業してください。

充電手順

4



充電ケーブルを家庭用コンセントに接続します。

付属の充電用ケーブルのコンセント側コネクタをご自宅の家庭用コンセントに接続します。

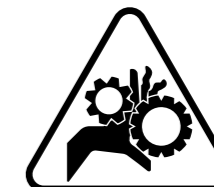
5



充電器のランプを確認します。

充電器のランプが赤色の時は充電中。緑色の時は充電完了を示しています。ランプが緑色に変わったら充電ケーブルを取り外して下さい。

6



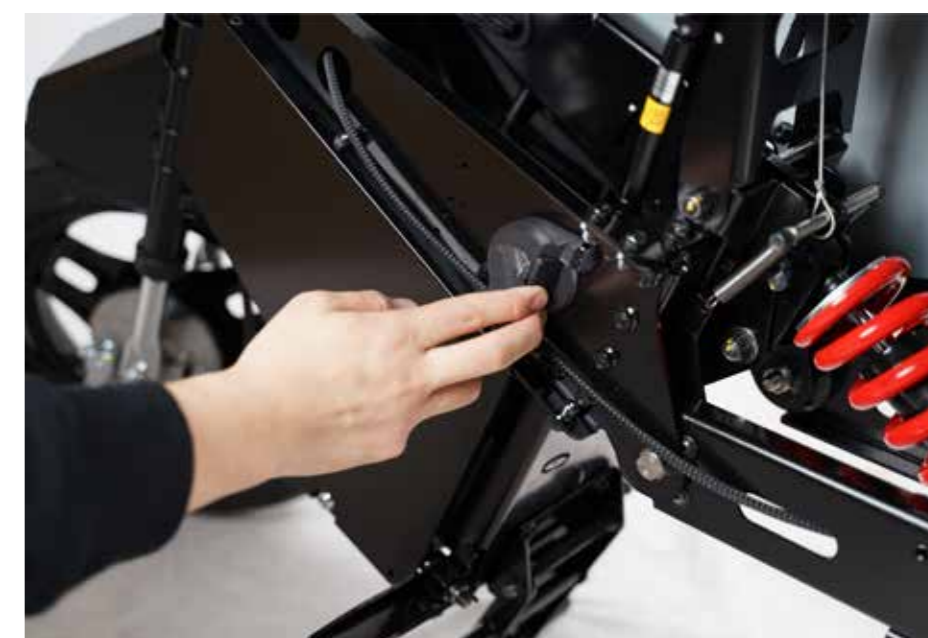
サイドパネルを戻します。

充電ケーブルを取り外したら必ず充電口のカバーを閉じて、本紙に記載されているパネルの付け方に従い、パネルを取り付けてください。



警告

充電口が水に濡れると感電の可能性が
あります。
充電後はしっかりとカ
バーを閉じたことを確認
してください。



10

バッテリーの交換

ICOMA

バッテリーの交換

1



本体の電源を切ります。

本体の電源が入っている場合は、コントローラーの電源ボタンを長押しし、電源を切ってください。

2



左サイドパネルを外します。

サイドパネルの外し方の手順通りに左側のパネルを外し、フレームが見える状態にします。

3

バッテリーカバーのロックを外します。

バッテリーカバーキーを使ってロックを外し、バッテリーカバーを持ち上げて取り外します。



バッテリーの交換

4



バッテリーからコネクターを抜きます。

バッテリーに繋がっているコネクターの根元を持ち、丁寧に引き抜いてください。
その後、バッテリージャックに必ずキャップをしてください。



警告

コネクターが水に濡れると感電の可能性があります。触る際には手が濡れていないことを確認してから作業してください。



5



バッテリーを取り出します。

バッテリーの取手を持ち、引き出すように取り出してください。半分ほど取り出したらバッテリー底面を持ち、落とさないよう慎重に取り出してください。



6



バッテリーを充電します。

取り外したバッテリーのジャックに充電コネクターを差し込み、充電手順 3~6 と同じように充電します。



警告

ジャックが水に濡れると感電の可能性があります。充電後はしっかりとカバーを閉じたことを確認してください。



バッテリーの交換

7

バッテリーを元の位置に戻します。

バッテリーを元の位置に入れます。

角度が合わないと引っかかる場合がございますので、慎重に入れてください。



8

コネクターの向きに注意して
差し込んでください



コネクターを差し込みます。

バッテリーのジャックキャップを外し、バイク本体のコネクターを差し込みます。

その後、バッテリーを奥まで押し込みます。



9



バッテリーカバーを戻します。

充電ケーブルを取り外したら必ず充電口のカバーを閉じて、本紙に記載されているパネルの付け方に従い、パネルを取り付けてください。



警告

ジャックが水に濡れると感電の可能性があります。
触る際には手が濡れていないことを確認してから作業してください。



警告

充電口が水に濡れると感電の可能性があります。
充電後はしっかりとカバーを閉じたことを確認してください。

バッテリーの交換

10

バッテリーカバーをロックします。

バッテリーカバーを少し本体側に押し込みながらバッテリーカバーキーを使ってロックします。

しっかりとロックされていないと走行時にバッテリーが脱落する可能性があるため、しっかりとロックされていることを確認してください。



11

サイドパネルを元に戻します。

本誌サイドパネルの付け方にしたがってサイドパネルを元に戻します。



11

バッテリーモニター操作説明

ICOMA

バッテリーモニター操作説明

1

トップカバーをめくります。

本体電流によって数値が増減するため、必ず走行を中止してから1分ほど待ち、本体内部が見えるよう、バイク状態にしてからトップカバーをめくります。



2

バッテリーモニターのボタンを押します。

本体内部のハンドル格納部底面にあるモニター下のボタンを押します。

個体差によってボタンが反応しづらい場合がありますので、強く押す、角度を変えて押すなどを試してください。



3



モニターの表示を確認します。

モニターに表示される情報を確認します。モニターの表示は走行直後だと正確ではない場合があります。正確な情報を見るためには停車してから数分間待ってから再度ボタンを押してモニターを確認してください。



12

点検項目

ICOMA

点検項目



注意

TATAMEL BIKEを点検せずに使用すると事故や怪我の原因になります。必ず発進前に点検をしてください。

手や服を挟まないよう気をつけて点検してください。

使用しない時も定期的に点検をしてください。

長期間置いて使用の際には念入りに点検をしてください。

異常が認められた際は確実に整備してから使用してください。

不具合については本誌のメンテナンス項目、トラブルシューティングのページを読み、対応してください。

ご自身での対応ができない場合はお問い合わせ用のメールアドレスまでお問い合わせください。



support@icomaco.jp

点検項目

ブレーキ

ブレーキレバーの遊び
ブレーキの効き具合
リアブレーキワイヤーの緩み
リアキャリパーのネジ調整

タイヤ

空気圧
フロント 140~175 kPa
リア 240~300 kPa

亀裂、損傷、異物
溝の深さ

バッテリー

破損、損傷

モーター

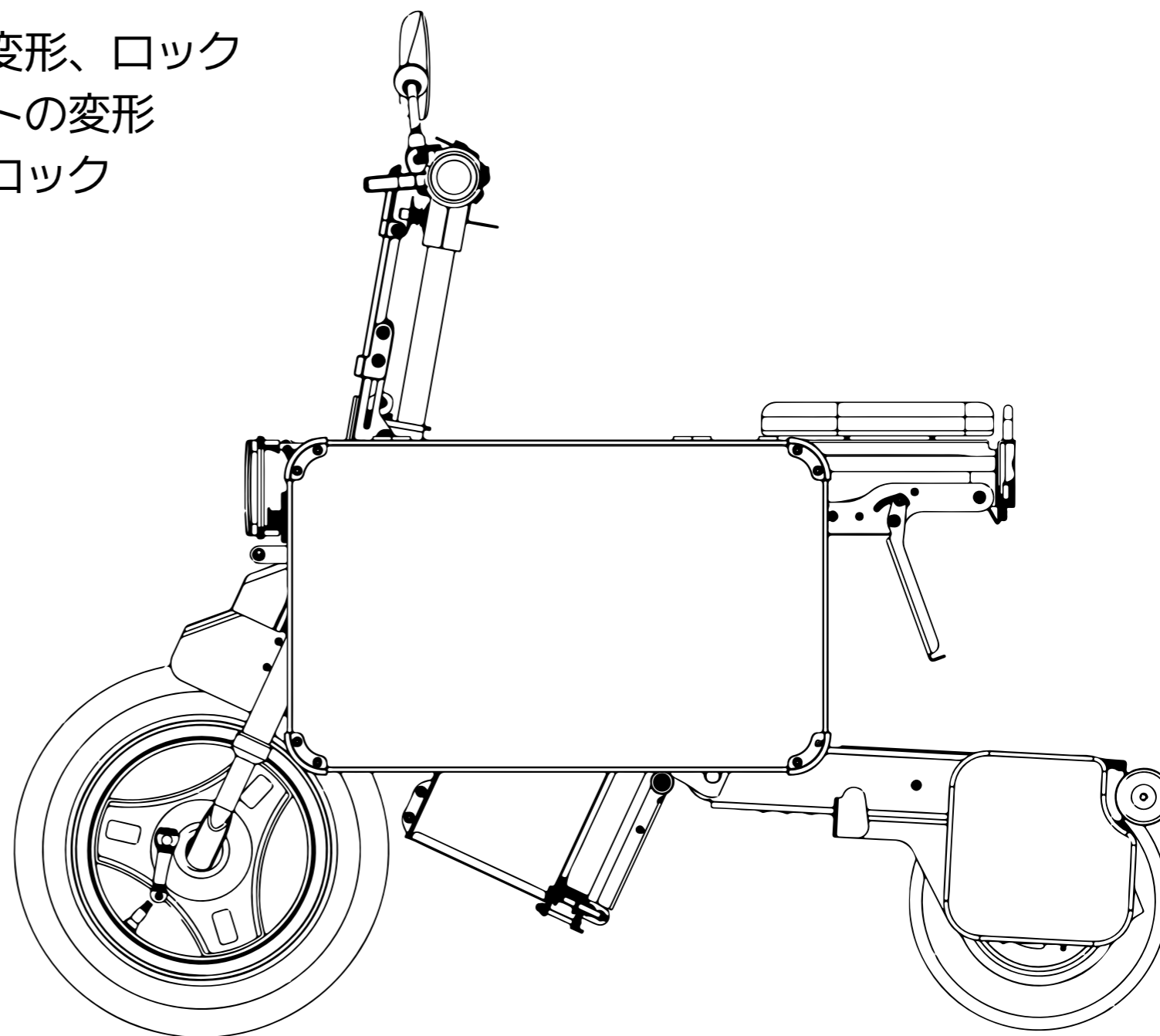
異音、異臭
加速時の挙動

ライト、ウインカー

電源を入れて、点灯すること確認

変形箇所

ハンドル周辺の変形、ロック
ナンバープレートの変形
サイドパネルのロック



13

メンテナンス項目

ICOMM

メンテナンス項目



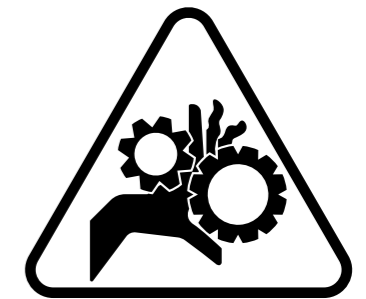
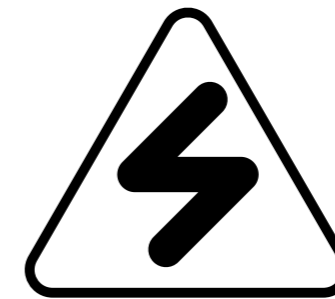
注意

TATAMEL BIKEをメンテナンスせずに使用すると事故や怪我の原因になります。必ず定期的にメンテナンスをしてください。整備は安全のため、ご自身の知識、技術の範囲で行なってください。

わからない場合やメンテナンスが必要な場合はお問い合わせ用のメールアドレスまでお問い合わせください。

整備を行う際は電源を切り、火気厳禁で、手や服を挟まないよう気をつけて行ってください。

ブレーキや基板部品、スイッチなどにグリス、油、アルコール、水分などが付着しないように注意してください。



support@icomma.co.jp

メンテナンス項目 ブレーキ

ブレーキレバーの遊びの調整

ブレーキレバーの遊びの量が適切か確認します。

適切でない場合は写真の赤い丸の箇所を回し、ロックを解除して遊びを調整します。

左右ともに調整し終わったら事故の原因になる可能性があるため、必ずきつく閉めてください。



フロントブレーキの遊びの調整

フロントブレーキの効き具合が適切か確認します。

適切でない場合は写真の赤い丸の箇所を回し、ロックを解除して遊びを調整します。

調整し終わったら事故の原因になる可能性があるため、必ずきつく閉めてください。



リアブレーキの遊びの調整

リアブレーキの効き具合が適切か確認します。

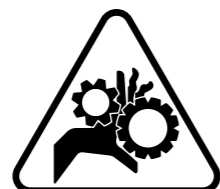
適切でない場合は写真の赤い丸の箇所を回し、ロックを解除して遊びを調整します。

調整し終わったら事故の原因になる可能性があるため、必ずきつく閉めてください。



メンテナンス項目 メインヒューズ

1



左サイドパネルを外します。

6番の手順通りに左側のパネルを外し、フレームが見える状態にします。

2

バッテリーカバーを開きます。

バッテリーカバーキーを使ってロックを外し、バッテリーカバーを取り外します。



3



ヒューズが切れていないか確認します。

サイドカバーを開けた中にある下の図のような部品がメインヒューズです。
図のようにヒューズが切れていないかを確認してください。
切れている場合はサポートにお問い合わせください。



メンテナンス項目 サブヒューズ

1



本体の電源を切ります。

本体の電源が入っている場合は、コントローラーの電源ボタンを長押しし、電源を切ってください。



2



右サイドパネルを外します。

6番の手順通りに本体右側のパネルを外し、フレームが見える状態にします。



3



メンテナンスカバーを外します。

六角レンチを使用し、2ヶ所のネジを外してメンテナンスカバーを外します。



メンテナンス項目 サブヒューズ

4



メンテナンスカバー内部のヒューズを確認します。

六角レンチを使用し、ネジを外してメンテナンスカバーを外します。

5



ヒューズが切れていないか確認します。

メインヒューズと同じようにメンテナンスパネルを開け、下の図の基板でヒューズが切れていないかを確認してください。

ヒューズが切れていた場合は原因を調べてください。

原因がわからない場合はお問い合わせください。原因が解消されたらヒューズを交換してください。



注意

基板が水に濡れると感電の可能性があります。触る際には手が濡れていないことを確認してから作業してください。

背高ヒューズ



背低ヒューズ



交換する場合は該当のヒューズを確認して、市販の同型ヒューズと交換してください。製造ロットにより、使用しているヒューズが違います。それぞれ機能に違いはありませんが、交換の際は元々ついていたものと同じものを付け替えてください。

※下記の図を参考に取り付けてください。
背高、背低ヒューズ共通です。

3A	5A	3A	5A	2.5A	3A
BLINK	LIGHT	METER	HORN	AUX	BK/TL

14

モーター操作説明

ICOMA

モニター操作説明

モニター

不使用ボタン

+ ボタン

- ボタン



カードキーセンサー

電源ボタン

モニター操作説明



全点灯状態

表示	説明
	<p>バッテリー残量の目安を表示します。残量が低い場合は点滅します。</p> <p>※バッテリーの残量表示はあくまで目安となります。正確な残り残量ではありません。正確な残り残量を確認する場合、停車した状態で、バッテリーモニターの残量表示をご確認ください。</p>
	<p>現在の速度を MPH または KMH で表示します。単位の切り替えは設定で変更できます。</p>
	<p>現在の車両の速度を表示します。</p>
	<p>現在のギアを表示します。ギアは 1, 2, 3 の 3 段階があります。リモコンの「+」「-」ボタンで調整可能です。</p>
	<p>※本機では使用しません。</p>
	<p>ODO / TRIP / 電圧 の情報を表示します。電源キーを押すと表示が変わります。</p> <p>ODO：累計走行距離を表示します。 TRIP：1 回の走行距離を表示します。 電圧：現在の電圧を表示します。</p>

モニター設定

- リモコンの「+」「-」ボタンを同時に2秒押すと設定画面に入ります。
- 設定画面では「電源ボタン」で項目を切り替えます。
- 各項目のパラメーターは「+」「-」ボタンで変更できます。
- 設定画面から出るときは「+」「-」ボタンを同時に2秒押します。



ページ	設定内容	デフォルト値
P.00	ホイール径	11 変更不可
P.01	定格電圧	48 変更不可
P.02	磁極数	30 変更不可
P.03	速度単位	0 (→Km 表示)
P.04	ゼロスタート	0(ゼロスタート) 変更禁止
P.05	クルーズ設定	0(クルーズなし) 変更禁止

ページ	設定内容	デフォルト値
P.06	ソフトスタート 設定	1 変更しないことを 推奨
P.07	速度制限設定	50
P.08	ABS 強度設定 t	0 使用しません
P.09	NFC キー登録数 設定	3 登録した NFC キーの数
P.10	ODO リセット	0 1でリセット

設定画面

モニターエラーコード



エラー画面

- エラーが解消され、エラー表示が消えるまでは通常操作ができません。
- エラーコードが表示された場合は下記のアドレスにお問い合わせください。

support@icoma.co.jp

- エラーコードとその意味は以下の通りです。

ページ	デフォルト値
E06	バッテリーの電圧不足
E07	モーターのホール信号異常
E08	ブレーキエラー
E09	コントローラーハードウェアエラー
E10	通信受信エラー
E11	通信送信エラー

15

起動手順

ICOMA

起動手順

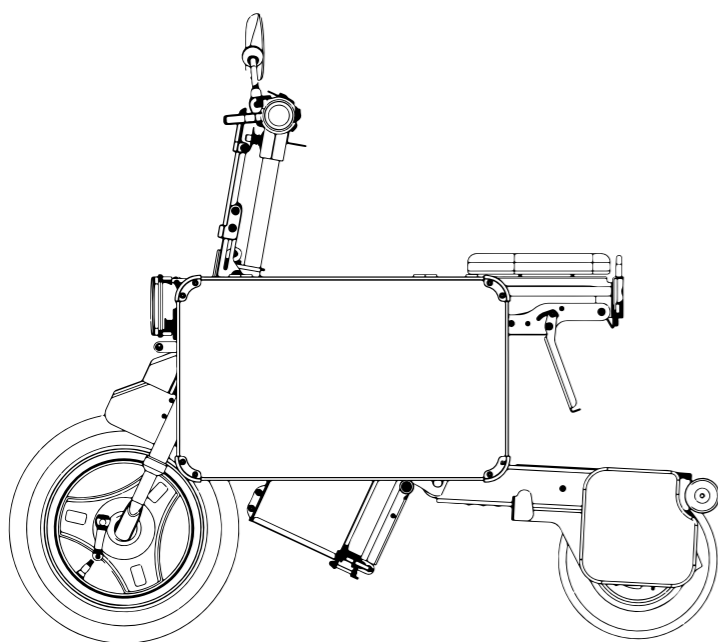
1



各種確認をします。

乗車時には必ずバイク状態にし、ミラーの角度を確認してください。

また、起動する際はリアブレーキを握り、スロットルには手をかけないよう注意してください。



2



電源を ON にします。

写真にあるモニター下部のボタンを長押しし、電源をオンにします。

タッチキーをかざさずに 1 分経つと自動で電源が OFF になります。



3



タッチキーをかざします。

モニターが点灯したら付属のタッチキーをモニター下部にかざしてください。

このとき、発進してしまう恐れがあるので起動を確認するまでスロットルには触れないでください。

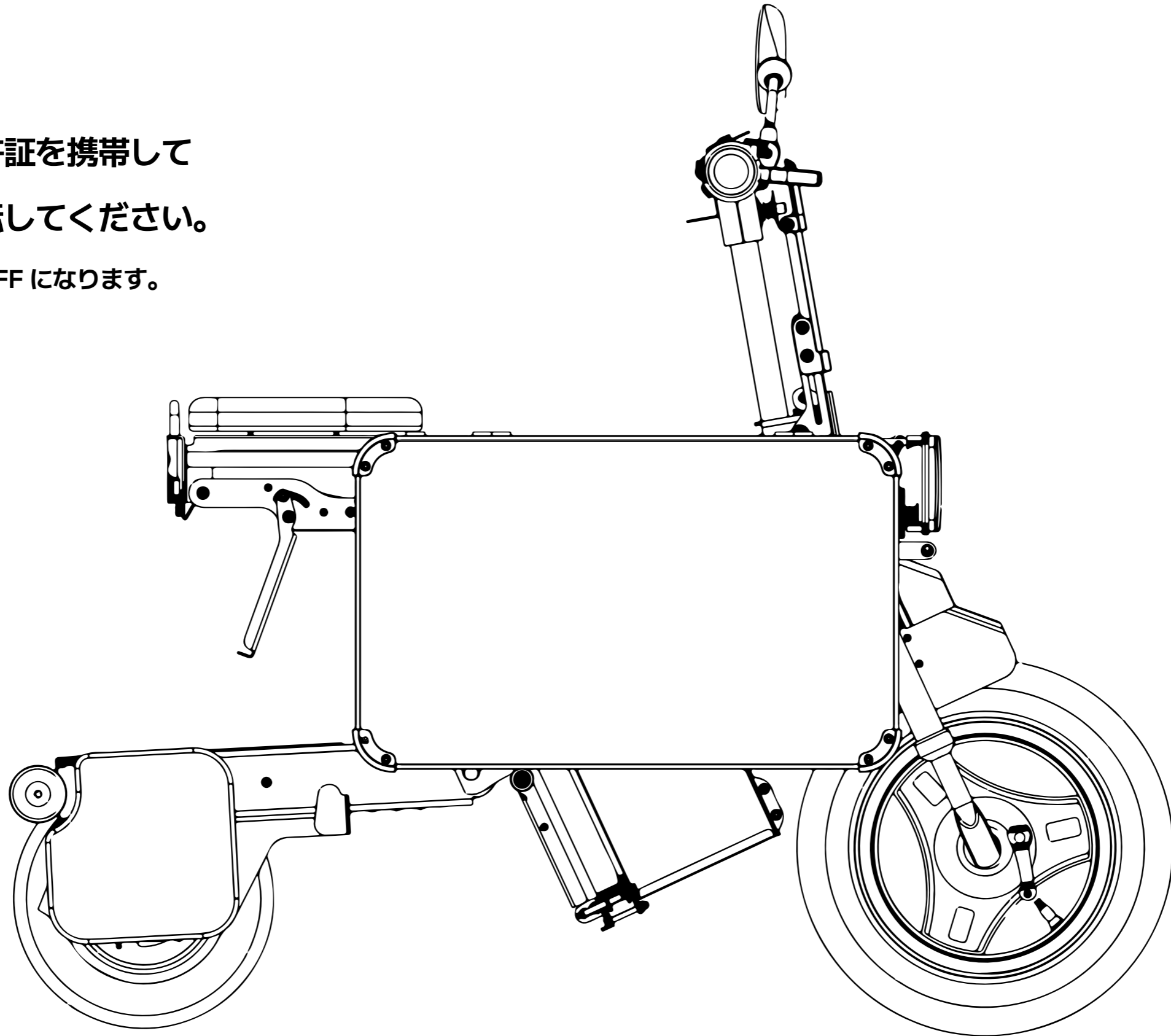


起動手順

起動完了

ヘルメットを着用し免許証を携帯して
道路交通法に則って運転してください。

操作がない場合 5 分で電源が OFF になります。



16

トラブルシューティング

ICOMA

トラブルシューティング

電源が入らない(モニターに何も表示されない)ときは？

- バッテリー残量はありますか？ バッテリー残量がない場合は充電してから使用してください。
- バッテリー残量がある場合はヒューズ切れが考えられます。P.45 を参照してヒューズを点検してください。ヒューズに異常がない場合はお問い合わせください。

発進できないときは？

- 配線の断線や抜けがありませんか？ 配線が断線していたり、正しく接続されていないと発信できない場合があります。各所を点検してください。以上のことを確認してから、再度発進してください。確認しても発進できない場合はお問い合わせください。

ランプ類が点灯しないときは？

- 5分以上、停車していませんか？ この車にはバッテリー保護のため、オートパワーオフ機能が装備されています。操作せずに5分以上経過すると電源がOFFになり、メータやフロントライトが消灯します。また、タッチキーをかざさずに1分以上経過することでも電源がOFFとなります。メータやフロントライトを再度点灯させるときは、再度電源をONにしてください。
- 各スイッチを作動させていますか？
- ヒューズが切れていませんか？ P.45、P.46 を参照してヒューズを点検してください。ヒューズが切れていないときは各部の故障が考えられるのでお問い合わせください。

トラブルシューティング

走行中にモータが止まったときは？

●モーターの温度保護機能が作動している可能性があります。電源を落として、しばらく待ってから再度起動してください。それでもモータが回らない場合はモニターに表示されているエラーコードをご確認の上お問い合わせください。

メインスイッチがONのときにメータやヘッドランプが消灯したときは？

次の項目を点検してください。

●5分以上、停車していませんか？ この車にはバッテリー保護のため、オートパワーオフ機能が装備されています。操作せずに5分以上経過すると電源がOFFになり、メータやフロントライトが消灯します。また、タッチキーをかざさずに1分以上経過することでも電源がOFFとなります。メータやフロントライトを再度点灯させるときは、再度電源をONにしてください。

●バッテリー残量はありますか？ バッテリー残量がないときは充電してから使用してください。

●ヒューズが切れていませんか？ P.45、P.46を参照してヒューズを点検してください。以上のことを確認してから再度メインスイッチをONにしてください。再度メインスイッチをONにしてもメータやが点灯しないときはお問い合わせください。

トラブルシューティング

充電できない（充電してもバッテリー残量が増えない）ときは？

次の項目を確認してください。

- 専用充電器の充電ランプが何もついていないとき、電源プラグや充電プラグはしっかり接続されていますか？
- 専用充電器の充電ランプが赤色で点灯していますか？
専用充電器のランプが赤色の点滅をしているときは次の項目を参照してください。上記のことを確認してから P.34~の「充電手順」を参照し、もう一度充電してください。以上のことを確認しても、充電できない場合はお問い合わせください。

1 回の充電で走れる距離が著しく短くなったときは？

- 気温などの環境でバッテリーの性能が下がる可能性があります。
- そのほかの原因が考えられる場合は、お問い合わせください。



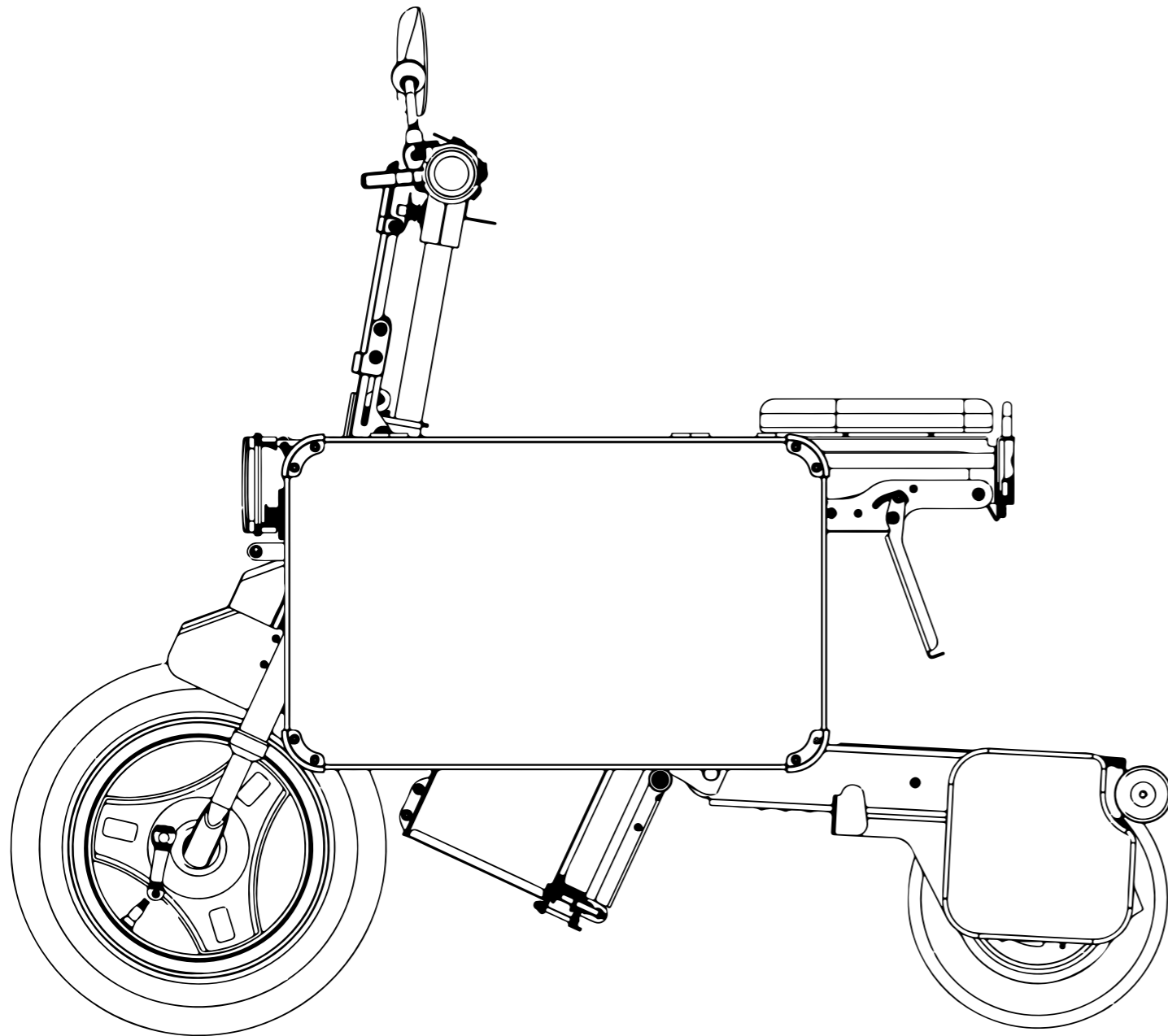
support@icomma.co.jp

17

製品仕様

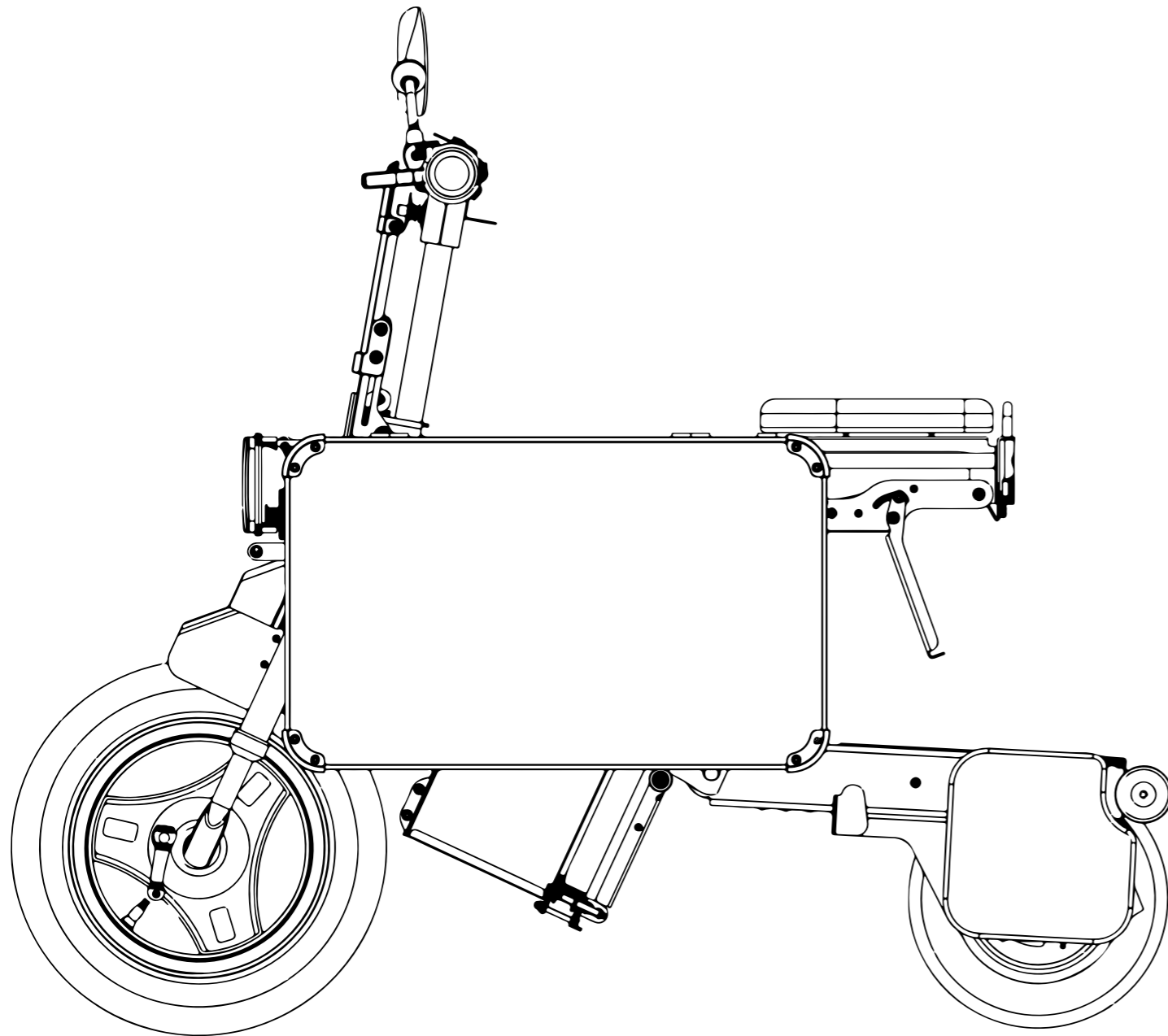
ICOMA

製品仕様



最高速度	45km/h
航続距離	30km
防水	IPX5 相当
定格出力	600W
最高出力	2000W
重量	63kg
全長	バイク状態 1234mm
	折り畳み状態 690mm
幅	バイク状態 650mm
	折り畳み状態 250mm
高さ	バイク状態 1000mm
	折り畳み状態 650mm

製品仕様



フロントタイヤ	80/90-10
フロントブレーキ	ドラムブレーキ
リアタイヤ	90/65-6.5
リアブレーキ	ディスクブレーキ
バッテリー	リン酸鉄リチウムバッテリー
電圧	51.2V
容量	12Ah

容量	12Ah
----	------

18

お問い合わせ

ICOMA

お問い合わせ先はこちら

正確な判断と迅速な対応をするために、次の事項を必ず確認のうえ、ご相談ください。

1. 車種、車体番号
2. 購入年月日
3. 走行距離
4. 相談事項
5. ご住所、お名前、電話番号

メモ

ICOMA

support@icoma.co.jp

その他ご依頼、ご質問などは株式会社 ICOMA のホームページからお問い合わせください

<https://www.icoma.co.jp/>

下記のような場合はお問い合わせ前に次の状態を試してみてください。

電源が入らない

バッテリーの残量はありますか。

バッテリーは正しく装着されていますか。

ブレーキがかからない

本誌のブレーキレバーの点検を参考に点検をしましたか。

本誌のブレーキメンテナンスを参考にメンテナンスしましたか。

ランプが点灯しない

ヒューズが切れていないか確認してください。